大正十二年二月十日印刷納本 大正十二年二月十五日發行

20

光

第二十輯

大正十二年二月

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

◇托鉢の底より湧き出す力……西田天香
◇一燈園に修行中の友へ……松下吉衞
◇貧しけれど(短歌)……菅谷かなめ
◇隱岐にありし日(短歌)……大野幽香
◇秋の歌(短歌)……磯山松男
◇テオドラ夫人一燈園を訪ふ……松井愚學
◇入園を望まれる方へ……鈴木五郎
◇西國巡禮の途上より天香師へ……澁谷ふさを
◇ビラ懸け(詩)……三石勝五郎
◇訴訟問題についてお尋ね下された方々へ……住田蓮車
◇一燈園日記抄……藤田生
◇返照錄……古川實

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し、歸一の大願に參ぜん。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成㆓就大圓覺㆒

別願　將㆓來世界眞平和㆒

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

托鉢の底より湧き出す力

西田天香

久し振りで皆樣に御目にかゝることができて嬉しい氣持を感じます。段々年末になるので、自分の爲、故郷の爲、種々と考へて居られるであらうと思ひます。若い娘さん方は、故郷の方がどうであらう、故郷からも皆さんがどうしてゐるであらうと、種々氣に懸ることであらうと思ふ。そんな中に托鉢して御座る。それを思ふと、自分は濟まないと思ふ　何時迄たつたら、ハツキリする事か知らんと云ふ考へを私も持つてゐるが、皆樣にもあらう。國から歸つて來いといふ。去ぬのは嫌、やつぱり此生活がしてゐたい、がこんな事で良いのかしらん、家でどんなに思つてゐるかしらん。こんな考へがきつとするにちがひない。そんな事に就いて話を聞いて貰はうと思ふ。

たくさんな今の政治家や宗教家や實業家や學者やら、各種の人が智慧を絞つて一生懸命にやつてゐる。そんなら、誰がこれでよいとハツキリして落ちついてゐるのか聞いた事がない。どういふ風にやるのが世界中最良いといふかを聞いた事はない。今世界は一つで、直ちに歐洲の波動を受ける。あなた方の、小さい胸に人として持たねばならぬ思ひを背負うて親や兄弟や、種々關係者の中に突つ立つてやつてきた。中には許されてゐる人もあらうけれど、それを私が知らんといふのではない。托鉢して居やす人が來やして無事でやつて居やすか知ら、と氣に懸らぬ日とてはない。いろ／＼氣に懸つてゐても忙しいので、ピツタリ聞いてゐる暇がない、けれども氣に懸らんわけはない、此生活をやつてゐることによつてきつと良いものがある、以前よりは幸福になる、途中でつまづく人は知らぬけれども路頭まで出てやつて行くといふ人にはきつと幸福にするといふ責任が私にもなければならぬ、それには私が氣を配る、それが多方面で私の力に及ばぬ程です。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ごて〳〵してゐる間に女の方は婚期が遲れはしまいか、學愚の道場などと云つてゐる間に立ち遲れた人になりはしまいか、こんな生活をしてゐる間に兩親が難儀してもたれかゝつた時兩親をどんなにあつかふか、勞働問題が起つた時どんなにするか、と人に聞かれたり、政治上の意見を求められた時、私は知りませんと、赤い顏をさせなければならない慘めさを見せはしまいか、それからそれへと氣を揉みます、ぢやによつて此生活を試みてゐる實業家にその中へどんな風に喰ひ入つてゐるか、又宗敎家には堂々たる成立した宗敎の中へどんな風に這入つてゐるか、敎育は行詰つてゐるが、そんならどんな風に行き詰つてゐるか、權威ある答辯ができたりする樣に考へてもみたり行つてもみたりしたいと思ひます。此生活に一番薄い關係の政治に就ても、私の頭では考へさせて貰つてゐます。皆樣が托鉢してゐて下さるその道中が明るうてこんな結果になるのか、たのみ效がある生活だと思うて貰ふと思ふにつけて、考へさせて貰つてゐます。

來年は一燈園も二十歲になります、二十歲と云へば靑年ですから考へなければならぬ、一昨年以來世間がパアッと騷いだ、つまづく人もあり、さわりのあつた事もあらうが、私を中心として考へますと所謂地下水のやうにどん〳〵とはびこつて行つてゐます。而してそれがどん〳〵と生長します、生長すると次第〳〵にその人達があらゆる問題を背負はねばならぬ事になる。一方には深い祈りがいる、一方にはその祈りからでてくるもので整理すべき物には深い智慧が必要です。嵐の吹いてゐる中へ點した火を持つてでて消されぬだけにしつかりしてゐる事が必要です、どん〳〵火元では點して行かねばならぬ頼まれたらどこへでもその火を持つて行かねばならぬ、考へたらつまらない生活で複雜な智慧を必要とするのです。どうか來年は深く祈つてできるだけそういふ要求に應へたい。

皆樣がやつてゐなさる上に勝利があれかし、皆樣の態度の上に惠まれる事のあれかし、次第〳〵に了解される區域が廣くなつて今の世界の種々の行きつまりが段々に解けかけて行けるなら嬉しい、皆樣やつてゐて、知つてゐなさるか、居なさらないか知りませんが、私だけは此生活をやつて行く事は今の人類の上に於て、かなり重實な一つの試みである事を段

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

々にかたく信じます。昔から種々の敎がある、何れも疎そかでないけれども此生活が初まつてからこれをきたいなものに思ふだけそれだけ今迄の道が生活化してゐなかつたかのやうに思ひます、信心と生活は一つでなければならぬといふ世の叫びが手近い處に一つになりつゝある事を此一燈園生活で知ります、何でもない事ぢやと思つてたが、こんな事であつたかしらと思うて自分のふみ來つた道をかへりみて驚きなさる事がきつとあると思ふ。私から賴みはせぬけれど、退轉せずにやつて頂きたい、その來年の祈り振りから働き振りに就ても用意してゐる私の考へを、今はハッキリ申せませんけれども皆樣の祈り添へによつて機會のある度にできるだけ新らしい氣持で步ませて貰ひたいと思ふてゐます、諸方へ行つて居やす人の托鉢の報告を聞きますと、種々な姿で妙な結果を生んでゐる事を知ります、京都の托鉢は少し長い間の習慣で慢性のやうになつて、皆樣の奉仕を托鉢する家が粗末にする傾があるかと思ひます、がこれも來年はごうにかしたいと思ひます、一燈園の建物が此場處ではふさわしくない事もあつて來年はごうも變るのでせう、此機會にせんぐり〳〵路頭に立つて此建物を中心にしない修業を皆樣にして頂きたいと思ふ。それがほんとうによろしい、眞劍な力ができます。

女の方に聞いて貰ふのですが、私は此頃、中產階級の家の娘をあづかりました、そして托鉢させました、嬉んで一週間程托鉢してゐる間に、血色もかわりからだも變り嬉々として喜んで歸りました、その娘の話を聞きますと家にゐる三四人の妹達が、ほとんど朝から何にもしてゐないと云ひます、起きて顏を洗ふて女中にこしらへて貰うた御飯をたべて御化粧すると晝になります、晝から仕事するやうな顏をして布なぞをいぢつてゐるとおやつになります、お母さんにごて〳〵云うてゐると夜になる、その外、お琴やお茶やお花の稽古に通つて金のいることばかりしてゐる樣子は生きてゐるのか、死んでゐるのか疑ひたいやうな生活をしてゐる事を目の前にみて一燈園の御婦人方がエプロンをかけて働きなさる甲斐〳〵しい姿を眞に生き甲斐のある生活だと羨しうなつたと申しました。こういふ風にあなた方のやつてゐなさる事がこういふ娘達を振い立たす力にもなつてゐるのです、第三者が、油斷せずに皆樣の働きを有効につかつてゐるのです。それだけで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

もあなた方の働きは大きな事業になつてゐるのです、これは男子の方も同じです、私はこんな仕事をしたと誇る樣な氣持は折角した事が傲慢な氣で臺なしになる事がある、少しの傲慢さなくほんとに下つて仕事をします、その一日は大變な仕事になつてゐるのです、今に皆樣が御承知になる機會があると思ひます、私は斯樣な力のある托鉢をもつと〳〵深く、もつと〳〵强く皆樣と共にやらせて貰ひます、さうして第一私の心を落ちつけたい、次に周圍の人にも落ちついて貰ひたい、次に國や社會の面倒な問題もそれが力になつて整理をして貰ひたい、きつとさうした力があるのぢやと私は信じます。國から親達が歸れといふのを引止めはせん、できたら歸つて孝養をつくして欲しい、私は皆樣を親不孝者にする事はできぬ色んな事情があつてかうやつてゐる事が孝行できると思ふ人は一心に托鉢して下さい。

そんならやがて親達が了解なさると思ひます、義務を負うてゐる方が義務の爲に走らんならんといふのをとめはせぬ、そんな事で完全に義務がなせん事を知つた人はやはり此生活で祈つて祈を深めて本當の義務を果して下さい、此生活は全てを根元から整理するのであつて支那の人が云つた事に「百人推門不如一人拔門」外から門を推すよりは中から門を拔く方がよろしい。權利思想で支配されてゐる生活から離れて、門のなかへ這入つてたとへかよわいともお光によつた生活をして自分の我の門を拔く方が近道です、遲いやうで早い。昔から聖達の敎へた事を實際の生活の上に實行するのです、私だけは命がけで信じます、來ると來んとは皆樣の考へによることです。蹤いて來られりや、よろこんで連れになります、がこちらからは決して勸めはせぬ。

今年の終りに、過ぎた一年を回想して、よく托鉢した中から、受けた光を味うてみて新らしい年を迎へ、新らしい勇氣をもつて一心にやる人はやらせて頂きませう、私は氣儘ばかりして濟まん氣持はするのですけれど、私の力のあるだけはやらせて貰ふつもりです、足らん處はどうぞお許し下さい。

（大正十一年十二月廿五日於一燈園講話　松井愚學筆記）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園に修行中の友へ

松下吉衛

そろ〳〵私達の『記念日』が來ますね。三月三十一日――卒業試驗を間近に控へながら學校をおよしになつたあなたが、學友には氣狂あつかへにされ、家とは勘當同様の關係となり、それに纒はる種々忍びがたい犧牲をよくもあゝまで忍びきつて、いよ〳〵覺悟をおきめになり、見送るものもない東京驛頭に、十一時の夜行をとるべく、寒さうな姿をお見せになつたその日！あまりあなたが寒さうなので、少し失禮のやうな氣がしましたが、私の着古してゐた黑筒袖をぬいで、あなたの後からソツト肩にかけましたのに、あなたは子供のやうに喜ばれ、『何よりの記念です。』といつて、私にも、包から本を一册とりだされてお贈り下さいましたね。その時、あなたは、本の内扉に、鉛筆で、立ちながら、お書きつけになりました、『厭世而精進』と。そして、この日を新生の『記念日』にしようといふことを、私達は話しあつたのでしたね。

あなたのお見送りをすませてから、外へでますと、宵のうち星さへ見えてゐた空から、シト〳〵雨が降り初めてゐました。雨具の用意をしてこなかつた私は、電車を郊外ちかい終點ですてゝ、その晩、寄せてもらふことになつてゐたTさんのお宅まで、さう短かくもない道を歩いたので、歸りついた頃には、着物もずゐぶん濕りましたが、それよりは、私の心の濕りの方が、實は堪へがたかつたのです。

あの時には勿論、これまでもつひぞ白狀することなく過ごしてきましたが、あの晩ぐらゐ眞實――心のどん底から參つたことは、近來あまり覺えがありませんので、とう〳〵一晩中まんぢりともせず、獨り靜かに臥てゐるに堪へないで、翌朝は暗い中から起き出して、そちこちバタ〳〵掃除を初めたりしたものですから、Tさん一家の方々にいぶか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

彼等と『自分』とは永遠の平行線ではないだらうか？

今、友の一人が、健氣にも、この旺んな流れから身を挺して『自分』の道へ辿らうとする門出をことほぐために、こゝに私は立つてゐるのであるが、人に無理を强ふる結果とはなりはすまいか？　世を厭つて精進するとまで深く觀念した友に。

私自身のたましひが、現在、こんなにも砕かれてゐる……

それは、あなたの場合と、不思議なくらゐ吻合してゐる入園の徑路をとつた私なので、あるがまゝな此の世の如何に厭はしきかについての調べは、可なり徹底的に、あらゆる觀點からなされたのであつて、理に於いては、今更、どうかうい ふ餘地のある筈はなく、又、實際に於いても、托鉢道に嫌氣がさしてきてゐるのでも何でもないのでありますが、時あつてか、『自分』の存在理由が失はれ、實にやるせない寂寞の感に襲はれるのです。天香さんの御導きにあづかつてから、既に足掛け九年にもなりますのに、信行更に進まず、常に、腑甲斐なさについては、自ら嚴しく責められたほどでした。今は潔く白狀します、心の濕りといふのは、かうだつたのです。

みんな、私の不德と無能とのさせる業に相違ないことは言ふまでもありませんが、あなたを見送り中、突然次のやうな抑へがたい感情に襲はれたのです。

この織るがごとき人波——

あのまなざしに見よ、足なみに見よ、身の裝ひに見よ！

悉くこれ文化主義者、金權主義者、現代謳歌者ではないか？

何といふ盛んな勢ひ、旺洋たる流れであらう！

それに、『自分』は何だ？

この貧寒な姿、無力な手で、どれだけ、あの威壓的な旺んな流れを堰くことが出來よう？

『存在』は如何に『嚴肅』だといつても、大洋に投げこまれた松明の運命は、あまりに慘めすぎる。

あたりを眺めよ！　いづこに『自分』がゐる？

『自分』は、たしかに異質的だ。

てなり、御世話になりがちな長老に對しても、深く慚ぢいつてゐるのでありますが、事實は如何ともすることができず、一度この『颱風』の襲來にあふと、身も世もなく滅入つてしまふのです。

この『颱風』に、折も折、東京驛頭であの晩吹き募られたのでしたが新生の第一日にあるあなたにはどうあつても氣まづい顔など見せられず、私としては、ずゐぶん切ない『記念日』でした。敏感なあなたに、若しあの晩の私の態度が何か好ましからぬ印象を與へてゐるとすれば、かうした事情であつたのですから改めて御詫びを乞はねばなりません。

『颱風』の起因については、種々考察もして見、一時は生理的方面から來るのではないかと疑ひもしましたが、さうではないらしく、やはり、病根は深く本質に喰ひ入つたもので、我執が強く愛に缺けてゐる故に外ならないやうです。そのくせ、人間が人一倍こひしいといふのですから、私といふものは、よつぽど變ちくれんに出來あがつてゐるのですね。

『記念日』の懷舊について、私は饒舌にすぎたかもしれません。さて、この間、京都から歸東されたHさんの話しによると、あなたは、鹿ケ谷におはいりになると間もなく一時ひどくお窶れなすつて、はたのものも密かに心配したほどだつたさうですね。あなた自身からは、さうした御消息を露ほどもお洩らしなかつたけれど、あなたの御氣質から推して、そんなことがなければよいがと、實は、蔭ながら少からず憂へてゐたのです。男女に限らず、若い純眞な修行者には、よく見る例で、托鉢のことに專念一途になるあまり、體のことを少しも顧慮せず、遂に病を醸すにいたる者がありますが、——こゝまでに至らなければ信仰の火花は散らないとも觀られ、又、誰にしたところが、かうした靈の所有者に對しては限りなき鑽仰の意を表するに吝なる筈はないけれど、——體を神の宮居と觀ずる時、拂はでもの犧牲は愼むべきでせう。

何しろ、一燈園生活は、前生涯とは、正に對角線的の相違ですから、誰にしたところが、入園當時は、一寸、體の具合がなみでなくなりがちのやうです。あなたも經驗されたことゝ思ひますが、食物の嗜好の、一變するといふより

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は、嗜好などといふ餘裕がなくなつて、何を戴いても、どんな殘り物でも、ありがたく口にすることが出來る氣持は少くとも私のやうな罰つたかりには、曾て味はされなかつたところでした。心は、かう革つても、體が、新しい生活に適應するには、幾何かの時を要するものと見えます。私なども、その當時、二貫目ちかくの贅肉を削られたものです。今から顧ると、新生命を産まうとする眞劍の場合なので、事情、已むを得なかつたにせよ、とかく型に囚はれ、作務すべてに亘つて、ぎごちなかつたことは、爭はれません。幸に、あなたも私も、病氣せずにすみましたから、よいやうなもの丶、平生、弱い方や、持病のある方などは、と丶は、よき程に注意しなければなるまいと思ひます。

園生活最初の一年間は、誰にしても、とりわけ、貴い種々な經驗を惠まれますが、あなたも、學ばれたところ少くなかつたこと丶存じます。托鉢は、ずゐぶん、色々に亘つたやうですね。河道屋さんの蕎麥ぼうろ燒きを振り出しに隨時隨所の便所掃除、草挘り、引越手傳、障子張り、さては、病人看護等、一燈園の新發意としての修行は、先づ、一ト通りおすみになつたわけでせう。ほんとに御苦勞さまでした。私の御厄介になつてゐた時分とは違つて、今は一燈園も大變な人數だといひますから、面白からぬことも起きがちなのに、よく御辛抱くださいました。あるがまゝな一燈園と、光そのものとを、混同して考へて、躓いて歸られる方も中にはあるやうですが、一應は無理からぬ次第とはいふもの丶、やはり、履き違ひは履き違ひです。それは道に志して一燈園に入らうとするほどの人は、どこか、よいところが、ある筈なのでせうが、お互に弱い人間のことですから、餘程、道心堅固の人でないと、ざわついた集團生活に禍されて、入園當初の緊張した氣分を失しがちなものですもの。裁かうとする態度で對した日には、何年、一燈園に在園しようと、天香さんに師事してゐようと、學得するところ少からうと思はれます。イリユージヨンは、一燈園に對しては勿論、天香さんについてさへ、一切、畫いてはならず、十字街頭の托鉢に即して、お光よりぢか〴〵に教へられよとは、私の入園に際して、一長老から、懇に諭されたところであり、又、天香さんの修行者に對するお

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

状も、かうあること、信ぜられますが、先頃戴いたあなたからのおたよりの一節に、

『一燈園におぶさつての托鉢は、今日までのこころ、マア、どうかかうか、無難にさせてもらつてきました。私には、何だか、樂すぎて勿體ないやうです。例外も稀にはありますが、總じて、どこへ呼ばれて行きましても、過分の待遇を受けますので、先輩の方の埋んだ德を減ぼしてゐはしまいかと、始終、自責を感じてゐます。

苟も、「厭世而精進」を誓ひ、修行を願じて起つた私として、こんなことでよいのか知らんと、時々考へさせられます。精神的光耀とか、見神の實驗とかいふこころを狙つて、氣を揉んでゐるわけではないのですが、今の生活が、私の心と、ぴつたり合はなくなつてきて居ることは、打消せない事實です。傲慢かは知れませんが、園におぶさつての托鉢では、物たらないのです、かりもの、やうな氣がしてならないのです、いつか知らぬ間に增上慢になるか自墮落にながれるかしてゐるのです。………

私の經驗では、一燈園に在つての托鉢修行は、半期か一期ぐらゐで、一ト切りとし、園には依らないで、天香さん御自身の曾てなすつたごとく、ぢか／＼に路頭の人となるべきだと思ひます。こゝを通らぬことには、水泳練習所場裡だけでの水泳練習と同じく、大海の荒波にもまれては、物の用にたつまいかと案ぜられます。………』

と、ありましたが、心うれしく拜見いたしました。

一燈園に入園して托鉢の型を學修させてもらふことは、なくて叶はぬ階梯に相違ありませんが、大願の士は、覺悟のつき次第、自分自身の行乞に徹すべきでありませう。

芝居氣があつてやるのでは、もとより問題になりませんが、眞に文字通りの捨身になり、きのみきのまゝ歩み出して、この空腹をどこでどうして障りなく養はれるか、又、此宵は宿らせてもらへる家があるかどうかも、皆目、あてのない、底の底に、身をおいて見ると、初めて、『ありがたい』といふことが實感され『さんげ』の念が湧き來り、どうしても極度の『つゝましやかさ』に身を持さずにゐられなくなるやうです。學德すぐれた老師について參禪して公案を錬るのも、いふまでもなく、益なき業ではありますま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

い。又、聖賢の說き遺された尊き書の硏鑽も、私等の蒙を啓くに、どの位、役立つものか計り知れない程でありませうが、此等の修行法は、惜しむらくは、實生活に觸れてゐないので、衣食の問題に行き當ると、如何な錬達の士も、タヂ／＼になつて了ひ、俗人と何等異ならない醜態を暴露し來るものが十の八九に居ります。そこへ行くと、一燈園の修行は、學貧學愚を標榜して生活そのものから革めてかゝり、一椀の食も淨不淨を吟味して口にするといふ、全人的祈禱になつてゐるので、修行法としては、あらゆる批評に堪へ、之れに優るものは先づ現代にはあるまいと信ぜられます。從つて、之れを創始された天香さんは、確に人類的存在であると謂ひつべきだと思ひますが、天香さんは、謙遜に、釋尊、クリストはじめ、苟も祖師開山と名のつく程の善智識の生活は、例外なしに路頭に築かれてあつた、私等はその遺業のホンの一小部門を受持たせてもらはうとしてゐるに過ぎぬと仰有つてゐるのです。

目下、東京を中心に托鉢されてゐるFさんも、暫く鹿ケ谷の一燈園に修行を積まれてから、こちらへお出でになつたのですが、やはり、自分ひとりで路頭に起つところから行じなければ、ほんとうでないと、勇猛心を發されたのです。その日が二十四日だつたものですから、今でも月々二十四日には、古を忘れないやうにと、路頭に起たれると聞いてゐます。『路頭の行乞を何處から始めよう』との御相談が、先達のおたよりにありましたが、京都地方はまあ御避けになつた方がよくはないかと思ひます。別段、大した理由もないのですが、『一燈園といふ背景なしに』とのあなたの願からすれば、よい意味にもわるい意味にも、一燈園といふものが知られすぎてゐる地方は適當でないと考へられるのです。いつそ、御鄕里を選まれてはとも思ひましたが私だけの經驗では、あまりお勸めすることが出來ません。鄕里では、誰しも同じこと、人々との關係が密接すぎるので、一槪にはいはれませんが、托鉢の修行には、障りが起きがちのやうです。とりわけ、家がどうにかやつて行けてゐる場合には、『やりきれなくつて、こう／＼歸つて來たのだらう。』とか、『口では、無所有の生活など、言つてゐても、やつぱり、物がほしくなつたのだらう。』とかいつたや

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

うな疑惑の眼で家人に眺められ、又、世間からも、『家に財產があるから、無報酬の手傳などして步けるのだ。あれは醉興でやつてゐるのさ。』などゝ、下馬評を浴びせられ、それは具合のわるいものです。私のやうな不徹底きはまる行じ方をもつてしても、やゝ久しいこと、氣狂扱へされることを免れませんでした。氣狂扱へされること、誤解を受けることを恐れ、一々人の思はくを氣にしてゐたのでは、底力のある仕事は何も出來なくなつて了ひますが、避け得られるだけ避くべきこと、いふまでもありますまい。

　こんなやうなわけで、御郷里が望ましくないとすれば、東京が、やはり、よくはないでせうか？弱いことをいふやうですが、路頭の托鉢には、極度の緊張を要しますので、身心とも、それは、ずゐぶん疲勞いたしますから、月に一度ぐらゐは、同人と會つてホーッとしたくなるものです。別にこれぞといふ纒まつた相談ごとがあるわけでなくとも會へば、靈は、和ぎを覺え、憩はせてもらへます。目下、東京では、月々五日を、かうした會合にあてゝゐるのです。この日には、三十面さげた鬚男まで、こども無邪氣さに還らされて戯れもすれば、又、專門家の講話を聽かせてもらつて、自己省察の糧に供してゐます。私一個の私情からしましても、このグループに、あなたを見いだすことは限りない悅びであります。

　指導するのどうのといふことは、お言葉ですが、その任でないことをよく知つてゐますから、お斷りいたしますが、此度、私は、愈々、覺悟をきめて、托鉢の形を、かへさせてもらふことにしたにつきましては、若し叶ふなら、あなたのお祈り添へを、衷心からお願ひいたしたいのです。

　貧弱な田舍町のプティブルジョアの商家に人となり、一ツ橋の高商や早稻田の政經科で經濟書のはしくれを學ばされた故か、金權＝貧困＝罪惡＝といふ因果律が、私には、始終、目についてならないのです。私の微力の叶ふ範圍で、何とでもして、たとへ、どんな僅かでも、この社會苦斷滅の祈りに參じたいとは、年來、私の本願になつてゐたのであります。もう、十何年かになりますが、學生時代のソシアリスティクな書籍の涉獵と、米國に於ける實際運動の見

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

聞とは、當時、私の採るべき方向について、ある力强い暗示を與へてはくれましたが『血を見る』といふことが私の良心にどうしても是認できかねたので、田園に歸り不徹底きはまる教育運動に韜晦する外、よい分別がわかなかつたのです。――この氣持は、あなたには、わかつてもらへることゝ信じます。――因襲に生きる田舍町で、世の中を知らない、かうした思想の若者が、どんなハメに陷れられるかは、ほゞ推測するにがたくないでせう。

さんざ、魂の傷手を負つた後、不思議な因緣から、N教授の懇な御紹介によつて、天香さんの御敎へを親しく御受けするやうになれましたのは、それから、三年目の大正四年中秋の頃と覺えてゐます。…………

托鉢は何を私に敎へてくれましたらう?

貪らず所有たず他と爭ふことなしに、養はれる事實!

佛の白毫よりの供養に、許されて生きる生活! この地上に、劣機の身をもつてして、よしほのかにもせよ、個中の消息の窺はれるといふことは驚異に値しないでせうか?

强ひて人情までも殺して、冷嚴、鐵の如き權利論に終始し、自ら得たりとして居た私には、眞に、『此岸より彼岸へ』飛躍の思ひがありました。何といふ和ぎ、赫かしさでせう! すべて善し。ものみなが光に浴して、神の御榮をほめたゝへてゐるではありませんか。私は甦りを覺えました。嘗ては形容詞とより響かなかつた聖書が、そのまゝ讀まれるやうになりました。無一物の充實味を知らせられました。敗殘の身も、かうして、托鉢の生涯を續ける限り、まんざら、生きがひのないことはないとの確信を懷くにいたりました。自分の頑な性に禍された故でもあるか、短からぬ學生時代を通じて、心から、吾が師と、呼びかけ得る一人をも、見出せなかつた不仕合せな私は、茲に、世にもすぐれた導師を惠まれて、何ほうありがたかつたでせう。

師は選ぶべきだと、つく〴〵感じました。

かくて、私は、高潮した精神をもつて、民衆の中へ、ひたぶるに押し進んでいきました。そして、そこに營まれてゐる人間生活の種々相に直面し、彼等と共に憂ひ共に樂しみして、得がたい經驗の數々を積ませて貰ひました。民衆は、すぐに私を仲間扱へに、といふよりは、家族扱へにし

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

てくれました。この黒筒袖姿の、勞働者ともつかず、書生ともつかず、見たところ容易くは正體の判明しない者を、別に怪しみもせず、托鉢先の紹介までしてくれました。床屋、湯屋、箱屋、藝者屋、旅館、手内職者、小使、按摩、小賣商人…………へと、轉々、招かれるまゝに、叶ふだけの奉仕をさせてもらひ、その人々の生活に入つていきました。彼等は、多く、單純で、善良で、こちらの言葉通りをそのまゝ信じ、賴んだことは責任をもつてやつてくれ、なまじひに書物など讀んだ私等に比して、木地のまゝな人間性といふ點では、遙に優つてゐます。

それは、彼等にも、よくない性情がないではありません。人は、彼等を、粗野であり、卑屈であり、好鬪的であると非難します。或はさうでせう。併し、事實は、彼等が貧しすぎるのです。働いても働いても、その日〳〵の暮しさへやつと、やりくりがついてゐる程なのです。彼等は、否應なく、その勞働力を、他の商品並に、需要供給の原則に縛られて、資本家に賣ることを餘儀なくされてゐます。たゞ、食べて通るだけを標準に、彼等の受ける報酬は、限定される傾向を帶びてゐます。彼等にとつては、食べること、それは、生活そのものになつてゐます。彼等には、餘裕などありやうがありません。文化生活とな？ それは異なつた人種によつて營まれてゐる外國事であつて、彼等とは、當分、距離がありすぎます。若し、彼等に許すに、相當、敎養の餘裕をもつてすれば、その粗野も卑屈も好鬪性も、著しく矯正されるでせう。すべては、彼等が生れ落ちると共にその狀態に置かれてゐる彼等自身を發見した、かうした悲慘すぎる環境こそ、禍根であると信ぜられます。

マルクスの資本論が前後矛盾してゐようがゐまいが、唯物史觀が許す可らざる偏見であらうとなからうと、かく、民衆の生活が、買手賣手の多少と有無とに支配される商品の價格と同樣な不安定きはまる狀態に置かれてあることは一日も許すべからざる惡制度であつて、如何なる見地よりするも、その存在の理由を見出すことは出來ますまい。

では、どうしたら、この惡制度を改廢して、民衆の生活を最も安定な基礎の上に置き、賃銀奴隷の解放を實現することが出來るでせう？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

制度の維持は權力に依つてをり、權力の所在は、〇〇〇〇〇に外ならないから、この目的の達成されるためには、どうしても、自發的にせよ他律的にせよ、資本家階級の綜合意志が、根本的轉換にあはねばならないこと、自明の理であります。

問題は、實に、この一事に係つてゐます。しかも、資本家階級の綜合意志の根本的轉換は、『駱駝が針の孔を潜るよりも難く』はないでせうか？　大覺者聖人ならば知らないこと、凡愚不德、私等ごときは、思ひ、一度このことに及べば、胸の奥底が鉛塊で一ぱいに塡充されたかのごとく感じ、急に策の講じべきものがないのに困憊して了はうとします。私の幾年かに亘る托鉢中、毒血を飮まされたやうな經驗といへば、限つて、資本家階級に屬する者によつてゞした。彼等の或る者は『社交』を解するが故に、體裁のよい言葉遣ひと當らず觸らずの態度とで、巧にも、托鉢者を利用して、知らざる眞似を裝うてをります。自分一個の修行上からばかり云へば、かうして鞭つてくれる者こそ、こよなき善智識ともなり、煩惱斷滅のいのりには、このくらゐ役立つか知れませんが、度衆生の誓願から見るとき、この『富める者』の家に、たゞ啞の如く愚の如く奉仕してをることが、果して、第一義かどうか、私は、隨分、惑はされてゐます。あなたは、どう思召しでせう？

それは、いふまでもなく、資本家にも『人間』が本具されてあります。彼等の生活基調とは對角線的に異なつてゐる無所有、下座、奉仕の生活を實證する托鉢者の存在は、彼等の多くによつて無關心事に扱はれ、もしくは、敗殘者の逃避的手段と蔑視されさへしますが、その選ばれた少數者だけには、菩提心を呼び覺ます、こよなき機緣となつてゐることは、爭ふべからざる事實であります。併し、選ばれたる者は、事實に於いて、少數であります。それはあまりな少數で、『質』を無視した『多數主義』に依存してゐる『制度』の前には、殆ど無力に等しい數です。『制度』の改廢は『制度』そのものゝ成因に考へ本質に察し、現實に働きつゝあるこれが支持力に對して行はれる、機宜を得たエフェクティヴにしてディサイシヴなムーヴメントによつてのみ成就されるのではないかと思はれますが如何のもので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

せう。世には『制度』のことを餘り問題にしない『精神主義者』の數少なからぬ群があります。宗教生活に立つてゐる者、藝術に携つてゐる者等の間に、これに同ずる多くを見出しますが、前者の體驗する靈的光耀と後者に顯現する美的三昧境より考へて、さもあるべきことと同感されはするものの、『制度』からにじみ出づる毒血を、不可避的に飲まされて苦惱しつゝある無算な民衆の現存せる事實を無みすることは出來ません。又、謂ふ所の靈的光耀には、往々にして安價なセンテイメンタリズムに墮せるものあり、藝術三昧と稱へられるものにも、この地上には許され難いデケアデンスに過ぎないものが稀ではないのであるから、私等は、欺かれてはなりません。この間も、さる所である人から、次のやうな痛棒をくらつて、大いに自責を受けたことがあります。

『私共へ來て下さる數多い一燈園さんの中で、よく「落ちつけてゐます。」の「よい具合です。」の「お光りが鮮かです。」のと、さも殊勝げに仰有る方がありますが、遠慮なく申しますと、限つて、さういふ方の仕事は、身が入らず、やりつぱなしで、殆んどその責任觀念を疑はれる位です。お見受けするところ、托鉢者は、大抵、甲の家に何日、乙の家に又何日、それから丙の家へといふやうに、轉々として、多くは、不熟練筋肉勞働の形で、奉仕されてゐるやうですが、家族の扶養その他後顧の憂などいふものゝない青年子女がかうした生活樣式をとれば、生理的には輕微な筋肉勞働のために血行が促され、心理的には情景が間斷なく移行して倦怠を覺えしめないし、それに、仕事の結果について經濟的義務を負はないのですから、宗教的體驗の有無に關せず、快適の感が持續され易いわけでせう。だから、私に言はせると、快適の感のするしないを根據にして、自分が正しい位にあるかどうかを判定しようとするのは、隨分あぶない行き方であります。ある人によつて、ある場合、どうしてもそれより外に採るべき道がないといふ道に處することして、それは、必ずしも、常に、快適の感を、その人に齎すとはいへますまい。否、時には、堪へがたい苦痛を伴ふことさへあり得るものでせう。人生は、快不快などいふことを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

超越した、手近な本務の遂行につきてゐると思ひます。で、私は、何がその人の本務であるかを、的確に、自覺せしめることが、一燈園生活の一大眼目であると、觀てをります。一燈園の修行法について、『聖者文化』の何のといふ非難も聞いてはゐますが、私は與しません。どうせ修行ですもの、ある型に從つて學んでいくことになるでせうから、最初から誰でもがうまくやれるとは限りますまいが、あゝして、生活にまで徹しての捨身行を修すれば、煩惱が自然に調整されて、心鏡には如實の物影が映されるやうになりますから、從つて本務に對する自覺もハッキリしてくる道理でせう。云々。』

世間には、かうまでに、一燈園生活者の歩みの長所短所を、親切な目で觀てゐて下さる方もあるのですから、どこまで行けるか固より測られませんが、一つ、行けるところまで行つて見ようではありませんか。まことに、この方の觀察されるごとく、托鉢修行の結果は、私等のやうな凡愚の身にも、幾分づゝなり、本務の自覺が深められつゝあるかに信ぜられます。私の僅ばかりの經驗によれば、本務の自覺は、この修行でよいとして、さて、それが具體化され外部に顯現するには、該博にして透徹した正しい意味の智識が大いに役立つものであつて、智識の缺乏は、往々にして本務の具體化を屈折せしめ、結果に於いて他を害ふことさへあり得ます。過去もなく、未來もなく、自も他もなく、又、生も死もなく、この身このまゝ、端的に生き切る底の境地を打成するには、智識の要はない筈であり、智識の眞の用は、この境地を打成し得た後に始まると見られるのですから、一燈園生活者によくある、『新聞一つ見てをらぬ』といふ沒頭的修行ぶりは、畏敬こそすべけれ、その世事についての迂愚のごとき、固より看過されてよい筈ですが、托鉢遊歩中、種々、問題の調整を依賴され、又、廣く社會苦の實相に觸れて、これが解決に心魂を碎いてゐる者にとつては、智識は實に無くて叶はぬ道具となります。この意味に於いて、『識智は力なり。』の西諺を、私は受け容れてゐます。

あなたも御經驗のことゝ思ひますが、托鉢の修行を發願して稍久しい間といふもの、何だか許されないやうな氣が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

して、ロク／＼新聞を讀む餘裕も持たなかつた私を想起することが出來ます。天香さんは『文を學ぶやうな餘暇を作るな、說教するやうな餘裕を持つな。』とお敎へなさいますが、生活にまで徹して無字を通し、生死を超えよう程の大願を前にしては、實際、片時も心に懈怠があつてはなりますまい。この程、必要があつて、外國書を調べて見ますのに、單語を忘れてしまつたのには驚かされます。これで、無字も通らず、學問も半可通ときては、たまつたものではありません。何だか、そんなふうな運命が、前途に待つてゐるのではないかと思はれてならないのです。

　家庭を成してゐる者が、どういふ托鉢の形をとるべきかも、一つの大きな問題であります。純粹に、出家道をえらばれる方は、勿論、そのまゝ、結構なのですが、在家道を採られる方が、實際上は、數多いし、あなたにしても、御生家のことはまのあたりに迫つて來てをり、いつそれがあなた自身の問題とならないとも限られませんから、今にして相當の考慮をこれがために廻らしてお置きになることも無益のわざではありますまい。

　等しく家庭ぐるみの托鉢といつてもその家庭々々の事情に從つて雜多の場合が想像されますが、今その總べてに亘つて詳論することは叶ひませんから想ひ浮べられる代表的の場合についてのみ少しく卑見を述べさせて貰ひませう。

　托鉢者同志で作つてゐる家庭である時、問題は最も容易であることいふまでもありませんが、事實は、さう簡單にばかりいくものでないやうです。家庭生活は、一面、人を放情に導くことは打消されません。如何に修行の身でも、お互、人間のことですから、愛慾の故には、道心も鈍らされ、時には、身を亡すに至る者さへあることも考へ、信行、退轉せざらんために、家庭をなしてをるものは、格別の工夫がなければなりません。獨身者の多い道場に彼等の介在することは、叶ふべくんば、避けたいものです。これは、理窟でなく、人情の機微に觸れたことであり、これまでの實例が私にこの提言を餘儀なくさせます。それから、一夫一婦制に本づく家庭生活の肯定を前提とするなら、夫たり婦たるものが、それ／″＼に、招かれるまゝ一時奉仕を轉々

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

させてもらふといふ行き方の托鉢を、典型的なものとなすことはどうかと考へられます。これは、特定の少數者を除いては、行じ續けるに、尠からぬ困難を、種々の事柄に、伴ひがちでありませう。家庭生活には殆ど見ないことのない子供の養育のことにしても、之を實際問題として取扱ふ時は、選ばれたる高德者でない限り、よく親としての責務を果たすことが叶ふかどうか、急にきめられないであらうし、從來の經驗は、勿體なすぎる犧牲の拂はれたことを、私等に告げてゐます。『殉道のために子供の肉を犧牲にするくらゐのことが堪へられなくては』といはれるなら、私は口を噤まねばなりません。そして次の如く反問することの許しを乞ひます。『それなら、寧ろ、一夫一婦制の家庭生活など肯定せず、始めから、出家道のみを立て通す方が、ほんとうではありませんか？』と。托鉢を行ずる程の者なら、子供を我が物として偏愛してならない道理ぐらゐは、皆、辨へてゐるに相違ありますまいから、產れた子供なら、之を養育し易い生活樣式に、その兩親の托鉢の形をかへて行くことは、間違つてゐないでせうか。在家道を認めるからには、定住的集中的奉仕の生活樣式をとることも許されますまいか？　一燈園で毎朝讀誦してゐる『維摩經』には、

『或現作淫女、引諸好色者、先以欲鉤牽、後令入佛智。或爲邑中主、或作商人導、國師及大臣、以祐利衆生。』

とありますが、これは、道念堅固にして、居によつて心を移されないまでに出來てゐる君子人のみ能くするところであつて、始終、煩惱の賊に破られがちな淺ましい私等が身に、そのまゝ文字通りには適用しかねること、今更いふまでもありませんけれど、形を世間なみに塗りつぶしても、道を生かしていくことは、不可能でないやうに信ぜられます。然し、『世間なみに塗りつぶす』といつても、托鉢者の奉仕する仕事には、自ら一定の限界が設けられるでせう。即ち、仕事それ自らの性質が、人性の成長を阻害し社會の調和を紊亂するやうなものは、原則として避ける方が安全だと思ひます。婬女とか商人導とかいふ言葉によつて象徵されてゐるものよりは、農民、勞働者といふやうな純粹生產者か、保姆、看護婦、醫師、敎師、記者、著述家、藝術

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

家等、組織變革後の社會にも當然存在の理由があるやうな業務を選ぶべきでせう。それから、此等の仕事に從事するこしても、托鉢者の生活の本據は、散在的なるものよりは集團的に組織された方が、何かこ便宜が多いこここいふまでもありません。かくて、農民志望の托鉢者が、相寄り相扶けて集團を作り、そこに醫師、著述家等の托鉢者も集つて來るこか、又は工場勞働を業こしてゐる托鉢者の集團に保姆看護婦等の托鉢者が加はつて來るこか、或は又托鉢者の敎師が主になつて學園の經營を始めるこかいふこゝになれば、『巷に齎された新しき村』は、隨所に建設を見、正に荒寥たる砂漠中のオーアシスたる觀を呈するでせう。强いやうでも案外に弱く、その當事者になれば、第三者たる場合に到底思ひもよらないこゝまで仕出來すのが人間の常ですから、かうして環境を整へ日々の仕事の性質を選ぶこゝが實は、一般に認められてゐるよりは、遙に決定的な事柄であるやうに、私には考へられます。

次に、これまで世間なみの生活をしてゐた家族の主人が發心して托鉢の生涯に立つた場合を考察して見ませう。夫婦は、『針こ絲この關係の如し。』こ悟つて夫唱に婦隨する時、家庭ぐるみの托鉢が始まりますが、然らざる場合、之を外護する者がなければ、一家の崩壞を來たし斷ち難き恩愛の情は、托鉢者の心をごんなにか痛ましめるここでありませう。よく懺悔の涙なくしてこの斷腸事に直面し得た何人があらう？又、若し『棄恩入無爲』が似而非なるものであつたら、罪の上塗りに外ならないでせう。家庭生活の纒縛より脫離し、己れ獨り精神的慰安を得ようこいふ程の願だけで、『圓頓之道無人情』こ宣するここが許されるでせうか？ 道德は爾く容易に蹂躪されるほご權威のないものでせうか！『棄恩の前には捨身の實がなければならない』こは、よく一長老からきかされてゐるこころであります。

さて、話を前の場合に戾し、夫唱婦隨して家庭ぐるみの托鉢が始められるこして、具體的には如何なる方法をこるべきでせう？

これまで從事してゐた職業の性質が、人性の成長こ社會の調和こに背馳するやうなものなら、特別の事情なき限り、經濟的犧牲は如何に大であらうこも、廢業するのが本當だ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

と思ひます。幸に、本質上、人類社會になくて叶はぬ仕事に關與してゐた場合、そのまゝその仕事を繼續することは毫も差支へないが、此岸彼岸の生活の間には、出來るだけ鮮な一線を劃する必要が實際上ありますから、萬端の相談相手に、叶ふなら、一燈園からさうした作務に經驗をもつた托鉢者を招待して一家と業務を扱つてもらひ、己れ等は同人の間に伍して親しく托鉢の體驗を積み、淨食に養はれて新生命に觸れなければなりません。かくするもの、半期一期に及び、相當自信がついたら、歸つて、家業を營みましても、懺悔奉仕の道に悖らないことを得ませう。そして許されるなら同人同志の集團的生活に仲間入りすることをお勸めしたい。

かうした集團的生活は懺悔奉仕の精神を基調としたコンミユーニスティクな組合組織を自然とるやうになるでせうたゞ、住することは、常に囚はれとなりがちであり、集團生活者は、世間との接觸に於いて何時とはなしに心の埃がたかるものですから、之を祓ふために、月々托鉢日をたてゝ、下座奉仕を專修する要があります。

新生涯に立つ場合、財産があつたらどうするかも一の問題であります。一切を神に還し權利義務すべてを抛つて懺悔の實を示す事が道に入る必須の條件であつて見れば財産は厘毛の微も私有物扱することは許されない理です。これは集團の公の管理に移さるべきであり時に必要に應じては財團法人の組織が適當と考へられます。保存される財産の形は、勿論、『寶玉』よりは『田畑』が選ばるべきです。

又、債務の殘された時、債權者に對する入道者の態度はどうなければならないでせうか?、第一に爲さねばならぬことは、彼れが、債權者の家に托鉢し、土下座を行じて身をもつて詫びるにあり、進んでは、辨濟不能の刑罰を法律上にも負ふべきでありませう。たとへ、法律上の刑罰もすませ、債權者からの許しを得られたとしても債務ある身といふ自責は、生涯、受けるだけの覺悟がなければなりません托鉢道への飛躍が、債務辨濟の回避となつたら大變です。

又托鉢者は一切のはたらきを價格にのほすことを禁ぜられてをり、その身は、菩提心からの供養によつて生かされ、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

乏しすぎれば虔しやかに乞食することが、原則になつてをりますが、財の淨化といふことは、かうして、受納れる方面で行はれるばかりでなく、(この方が順緣なること勿論でありますが、)之を消費するに禮拜と敬虔とを忘れず、かくて養はれた身が、また、如法であるなら、たとへ、それが世間なみの所得であつても淨財の名をもつて呼ぶに差支あるまいと信ぜられます。(云ふ迄もなくこれは逆緣です。)

　この逆緣の行き方をとるなら、商業主義の現代に處し、已むを得ず、はたらきを金に換へることも許されるでせう。但し、逆緣だけそれだけ、危い道であることを、この行き方をする者は、常に心得ねばならぬこと勿論です。

　河上肇博士などは、『資本主義の時代に淨財なし。』と喝破されてゐるさうです。淨財にも種々の品等があり、又、人間の淺ましさを考へれば、學徒たる良心の敏感なる博士の如きが、かう言はれる氣持に衷心からの敬意を拂はせられますが、願として『佛の白毫より養はれよう』とする托鉢者の虔しやかな身の持ち方は、何日、如何なる所に於いても、人間に選ぶことを許されてゐる生き方の上乘なるものであると確信されます。

　如何に厚顏な私とて、現在、私の生活が淨財によつて支持されてゐるなど〻、公言することのならぬは、勿論のことですが、いのりはこ〻においてあり、たとへ、覺束ない足どりにせよ、幾歲を、かうしてこれまで辿つてきたのです。その間に於ける、自分自身の經驗と世相の觀察とは——たとへ、それが如何に貧弱な經驗であり不透徹な觀察であるにせよ、忠實に之に學び、それと同時に、常に敎へを他に乞ふ謙讓さは失はずに、生活を統制していく外、私のいき方はある筈がありません。——やつぱり、あの社會問題(それの解決の或る方法について、私の良心が隨分惱んだところの)へのいのりに、私の奉仕を方向づけてゐます。この頃では、そこに、使命を感ずるまでになつてゐるのです、いと小さき力の者のくせに、をこがましい言ひやうではありますが。私の惠まれてゐる今の境遇は、この使命(どうしても言ひやうが少し大袈裟すぎますが、咎めないで下さい。)を果たすに、必ずしも好都合であるとはいはれませんが、私の時間と精力とを之に集中させることは許されてを

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

りますから、どうせ、これぞといふ能も用もない證であり、生涯を之がために献げ、社會再建の一工人たる役割を務めさせてもらはうといのつてゐます。このいのりの故に、私の生活樣式は一時奉仕から、集中的專門的の奉仕に、移つて來てをり、財物の淨化も、從つて、消費の方面に於いてするの外なく、居の支配を蒙り易い私としては、隨分、危かしい道にあることも見られます。

さもあれ、〇〇に於ける社會問題の解決が、U社の如きによつては帝國主義的社會主義の思想をもつて圖られ、又目覺めた〇〇〇の大衆によつてはマルクス主義の〇〇をもつて期せられつゝある一方に、狂暴限りなき〇〇思想の跋扈と、飽くことを知らない、恥づべき資本主義的精神の瀰漫と、乃至實行力なきインテリゲンチアの微溫的論策とを見つゝある時、懺悔奉仕の祈りを持して此の難解の問題に對する托鉢者の態度の如何なるべきかは、私等の前に投げられた最重要の活きた公案の一つでなければならず、又私に測るに、〇〇の〇〇運動に、もし新生面が打開されることがあるなら、それは此の立場からの或るはたらきに依つてゞはありますまいか？

これについて、あなたのあるがまゝなお考へを、お洩し願へるなら、この上なき仕合せです。

隨分、いろ〳〵のことを、纏まりもなく書いてまゐりました。申上げることが盡きたといふのではありませんが、筆やゝ重さを覺えますので、この邊で擱筆させていたゞきます。以上、觸れて來た問題の一々についての詳說は、いづれ又その機會が惠まれることでせう。

讀み反すには少し長すぎる手紙なので、書き放しのまゝ封じて了ひます。ある一部分の言葉つかひだけでは、時に眞意を誤られるやうなふしもないではないと懸念されますから、どうか、全篇の基調をなす精神と私が一燈園の同人である立場とを考慮されて、さういふことのないやうにお願ひ申します。

山地の鹿ヶ谷では、早春にも筧の水は、氷ほどの冷さがあることでせう。黎明の山氣をほしいまゝにしての禪堂の讀經には、身の緊張をお覺えなさいませう。道のため、折角、お大事に。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

貧しけれど

かなめ

貧しけれど心は澄めり朝な夕な
出でては仰ぐ黒髪山を

貧しけれど心は澄めり小夜深く
ふみ讀み聽くは黒川の音

昨夜の湯にかけしがまゝの姿して
手拭凍る寒さはなれり

ある宵は手觸り冷たき瀬戸火鉢の
小暗き灰に涙こぼせり

垢づける着物のゑりをかき合せ
年傾ける夜を寂しめり

目さむれば肩冷えにけり外の雨は
夢ながら聽きしその音ならむか

隱岐にありし日

大野幽香

地圖の上に吾が住む島を見出して
ふと淋しさの心おこりぬ

寂しさを忘れむために詠みたりし
つたなき歌を君に送らむ

人々を責むる資格もなき身ぞと
今キリストの前に跪く

只ひとり友を離れて淋しくも
遊ぶ兒に似し隱岐の島はも

風吹けば五日も汽船の來ぬと云ふ
隱岐は淋しき離れ島かも

何事も定めなるぞとあきらめて
孤獨の身をば愛しみにけり

隱岐に來て十日經にけり友もなく
岸べに立ちて波の音をきく

暮れて行く岸べに立ちて峯の上の
動かぬ雲を見てゐたりけり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

秋の歌

磯山松男

一　秋夜雨情（九月廿三日作）

雨ふればつれはきこえぬ浪の音の今宵は近くひゞきけるかも
松の葉の露ふき落す風ならし外の面に鳴りて遠退く音は
昨日けふ雨のふれゝば小松生ふる庭になく蟲の聲のさもしさ
雨ふれば幾夜ながらにしみじみと病みこやる人のものいひにけり
病む人ととぎれとぎれに話しする秋の夜さむくなりにけるかも

二　山海秋景（九月廿五日作）

ほがらかに朝日照れゝば肌あをき伊豆の山々雲立ちわくも
相模の海澄みていろこき浪の上わがひとり泳ぐ秋の朝かも

三　秋曉時雨（九月卅日作）

東の空のあかみに光りつゝ小松が上に朝しぐれふる
松林に鵯なくころのひそまりて時雨ふり來る板戸打ちつゝ
空あかみふる朝しぐれよろしみと立ちてしみればいよよふり來る
しぐれふる朝空ひくゝ飛びすぐる一羽鳥はなかさりにけり
わが宿の秋はぎの花咲きさかりけさはしぐれに散りてけるかも

四　秋草（十月十日作）

わが來つるすなはち拔きし道の草またはつはつにもえいでにけり
秋さりて生ふる道草若けれど皆實をもちて伸びにけるかも

○本號表紙題字　は、池大雅の書よりいたゞきました。有名な人ですから、今更申すまでもありませんが、惠恩院六如大僧都が、大雅の圖像に讃せられた字々實錄と自から申される一詩を掲げて高風を偲ぶことゝ致しませう。

鶉衣蓬髮意怡然　言語近禪形似仙
避世仍懷濟世志　賣山不畜買山錢
磯材滿屋繞容膝　川字成腔時弄經
至意深山誰可會　空令姓字藝中傳

○光の友の書架　谷口雅春さんの論文集『聖道へ』が新光社から出ることになりました。倉田さん有島さん賀川さん達の思想と一燈園の立場と對比して隨分突込んだ論評がされてあります。勞働問題に關する御意見については他日申上げる機會もあることゝ思ひますが、あくまで眞に徹せんとする著者の意氣が全篇に溢れてをり、妙に引きつけられて最後の頁まで讀まされて了ひます。私は校正刷を惠まれたのです。本月上旬發賣の筈。代價は二圓位のよし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

テオドラ夫人一燈園を訪ふ

松井愚學

十月廿四日の午後のことでございました。園は珍らしいお客樣をお迎へ申上げました。それは他でもありません。尾崎行雄氏とテオドラ夫人のお二人でございます。御案内役は天香さんがなさいました。御夫妻は園の建物や周圍の風光を愛でつゝお光の間でしばらく御休息になつて天香さんと種々お話なさいました。越えて廿六日テオドラ夫人は衣棚杉本さんの裏家の六疊へ大澤德太郎氏夫人と同志社女學校寄宿の舍監門瀨さんと御同道で天香さんをお訪ねになり一燈園生活について更に御研究をお深めになりました。尾崎氏御夫妻の園御訪問はテオドラ夫人が一燈園生活を海外に御紹介なさりたい爲めに恰度御入洛になりました機會に親しく實地の御見聞をなさいましたのです。行雄氏の御訪問は云はゞテオドラ夫人の御同伴であつたのです。さうして夫人が御紹介なさりたい御趣旨は『世界の大勢がさうではあるが殊に日本は物質的な國であると一般外人が間違つて見て居るので決して日本は物質のみの國ではなくかうした精神運動のあることを實際に示して其の偏見を正したい』ので海外の雜誌に寄稿なさいます爲めであつたのです。

後で天香さんが御夫妻にお話なさいましたお話の要旨をうかゞひましたので摘錄させて頂きます。御夫人になさいましたお話の大要は

ルーテルの言葉に「勞働は祈禱なり、祈禱は勞働なり」と云ふことがあるが、一燈園の托鉢は其れに當つて居る一燈園生活が精神運動であるやら、物質運動であるやら知らぬ。また聖書も讀まぬが、それが此生活に如實に現はれて居る。たとへば「父の家には住ひ多し」とか「無くてかなはぬものは神これを惠みたまふ」とか凡て現はれて居る。神は生きてござる。生活のなかに生き〳〵と生きてござる。神を信ぜぬわけには行かぬ。佛も同樣である。神佛は同じいと云ひ得られる。所謂ブディストやクリスチャンは、私は嬉こばぬ。

テオドラ夫人はこれに對して同意見をお述べなさいましたさうです。天香さんは京都ホテルに滯在中のゴルドン夫人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

が一燈園生活を研究なすつてゐらつしやることをお話なさいましたら夫人は既に御存知であつたさうです。それから

お話は進んで

一燈園は生活の清規を示し宣光社は經濟規範を證明して見たい爲めの試みである。私は今訴訟をして居るが、預りものに對しては權利の保護をしなければならぬ。私が原告になつたことに對して、無抵抗を奉じて居る天香が訴訟すると云ふことは怪しからぬと云はれて居るが、一燈園と全く別である。一燈園と宣光社と一人で二つのことをして居ることに就いて疑問を持つて居る人があるが今に明らかにする機會があらうと思はれる。世の中を整理するには、修道の機能一つだけでされやうとは思はぬ所謂世界の物質運動の解答を、事實の上に證明することのあることを承知して居る。それは私の名でかならずせなければならぬことではない。けれども今預けられた仕事は難局であつて、誰が引受けると云ふその適當な人を見出さない。財團法人に出來るまでの、面倒な間を私が引受けて居るのである。

私の連れには二種類の人がある。一つは一燈園生活だけ喜ぶ人であり、他の一つは宣光社を試みることに興味を持つ人である。

「懺悔の生活」の「落ち穗」のなかにもそのことは書いてある。宣光社は侵さないと共に侵されざるだけの働きが必要である。天香は訴訟して居ない。宣光社を預つて居る市太郎が預つて居る機能を代表して居る餘儀ないことである。それを了解して貰ひたいと云ふのではないが、それに跌づく人は新らしい生涯の半分より知らない人である。

夫人は今の處一燈園生活だけを紹介して見たいと云つておゐでになつたさうですが以上のことをもお云ひ添へになつたさうです。尾崎行雄氏には廿四日園へお向ひになる自動車のなかで次のやうなお話をなすつたさうです。

かつて尾崎氏が來京して、軍備縮少案に就いて講演されたのを興味を持つて聞いて居た。軍備縮少は私等も願はしいことである。出來るなら非戰論も理想である。けれども實際はさう行かぬ。二つの理想を實現させやうと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

思へば、實現さし得る生活が必要である。一燈園生活はその必要な生活の一つの現はれである。軍備縮少と非戰論の理想を持ちつゝ現代を引きづつて行くのは、宣光社の仕事に似てある。フランシスカンで云へば、一燈園はファウスト●オーダー宣光社はサード●オーダーである。今の預つて居る仕事のそれが理想的宣光社でないけれども、理想的宣光社と理想的一燈園とあはせたとき、ほんとの眞俗二諦の生活が現はれるのである。

以上が其大要でありました。夫人は園の寫眞と天香さんの寫眞を御所望になりました。幸ひ園の寫眞は天香さんの手元に數葉ありましたのでお持ち歸りになりましたが天香さんの寫眞は生憎なかつたので後から御送りされることになりました。それから夫人は園生活に就いて天香さんに何か書くやうにとおつしやいましたので天香さんは快よく諾され尚中桐確太郎さんにも御紹介になりました。何れ近く園の生活とゝもに光のかゞやきが海外に紹介されるであらうと存ぜられます。

入園を望まるゝ方へ

鈴木五郎

問一 個人の信仰上の練達のため、一燈園へ入園お許し有之候や（生活費を有する者）

答一 心から眞面目に信仰を深めて、それを生活にまで徹しようと云ふ止むことの出來ぬ願を持つておいでの方とは、一燈園は御一緒に歩かせて頂きます。但し、此の修業の方法として、一燈園は他より求められるまゝに、可及的人の嫌ふ仕事をさせて頂きます。之れを托鉢と申して居りますが、この歩みを爲さる方は、神より自然に養はれますので、特に生活費は入りませぬ。

問二 社會的に破産し、或は無一物者にして入園を希望する場合の手續方法は如何に候や

答二 今までの自分の生活の間違つてゐたことを氣附き、心から懺悔し、身を捨てゝ一切のために決心された方なれば、其の方の社會的狀態は問題ではありませぬ。

但し、破産或は失職したゝめに、職を求めんがために御

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

入園希望の方は、園の祈りの心持とそぐひませぬので、職業紹介所の方へ行つて頂いて居ります。

問三　入園中の人々の生活の方法如何、(勞作及宗教的修養方法)

答三　懺悔の心を持つて、求められるまゝに奉仕勞作し、その内に神に養はれ、光を見んことを念じて居ります。

問四　隨時、入園希望者を御許容あるや

答四　入園希望の方が非常に多數で、到底隨時に入園して頂くといふ譯に行きませぬので、一應手帋にて、入園希望の理由、御兩親の承諾の有無、身體の疾病健康の程度を、赤裸々に御認めの上、天香さん或は當番宛てに下さいまして、その御方の願及び狀態に對して、一燈園が何等かの御役に立つと思はれました時、御來園下さいますやう御返事いたしますから、其の上にて、おいでを願つて居ります。突然ですと、止むを得ず御斷りいたさねばならぬ樣な場合が生じます。

但し、一宿兩餐と申しまして、一夜、園に御泊り下さいまして、朝夕の御飯を召し上つて、園の生活を御味ひ下さいまして、御歸りになる方は、何時何方でも差支へございませぬ。

問五　入園せんと欲する人々の精神的決心は如何あるべきか

答五　今迄の生活を悔ひ改めて、總べて持つてるものを捨て、神に養はれ、十字架を負ひ、「御心の天に成るが如く地にも成らんがための最も小さき道具として、この聖業に參加せんと決心された方は、最もふさはしい御氣持と存じます。

猶ほ詳細は『懺悔の生活』に由て御覽を願ひ度と存じます。

此の問答書は越後國直江津の日本聖公會牧師塚田健作氏よりの質問に對し、鈴木五郎さんが答へられたものゝ寫しです、入園を希望される方達の參考として好適と思ひますので、誌上へ載せさせていたゞきました。(蓮車附記)

○西國巡禮の途上より天香師へ　　澁谷ふさを

十月十六日谷汲山途上青墓にて踊躍歡喜
我を載する大地は大悲の觀世音
吁、このあゆみ、このあゆみ

ビラ懸け

三石勝五郎

東寺の前

ビラを懸けつゝ
街を行けば
通りかゝる同人三人——

おゝ、我も亦合掌
行きすれてたゝずむ
東寺の前

舊都の空に
千年の昔の如く
日はのぼれり

ビラ

ビラは
あくる朝
はがれてゐた

小供に
むしられやうが
どうしやうが
又
今日も
懸けて行くより
仕方がなかつた

一圓

私が三條の青年會に
同人三人で托鉢に行つた日の事である
仕事は英語學校の廣告のビラ懸けであつた
その朝三人は分擔した丈ビラを持つた
そして「甚だすみませんけれどこれで食事をして下さい」
と、各々に「一圓づゝ」渡された
三人は合掌してそれをいたゞいた
門を出ると、京都市中に散つて行つた

園へ歸つて三人が御供養の使ひ道を語り合つた時に
甲はビールを呑んで了つた
食事は一圓では不足であつた
乙は餅を食べた
あまりの金を有つてゐた
丙はうどんを食べた
あまりをお賽錢にした

光はそれぞれめぐまれる
體驗した丈にめぐまれる
僞りも、よろこびもあるまゝに

傘

ビラ懸けしてゐると
雨がふり出した
私は困つて
軒下に駈け込んで
しやうことなしに佇むと
「お傘を借して上げますさかい……」
私はもつたいなく
若い妻君の聲をきいた
「破れてゐます
お返し下さらんかてよろしうおす」
辭退したが
再びすゝめられて
につこり拜んだ軒先に
青空が見え初めた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

眠れる舊都

東山——
靈鑑寺
その近く夜は冴えて
冬の夜空のこゝろは何か

深き眠りに
舊都は落ちて
ひとり加茂川の流れのみ白し

おゝ、あかつきは
かぜ寒く吹き入る
破れ障子の一燈園

影くらく
早起きて
托鉢に急ぐ人々

——鹿ケ谷にて——

姨捨の思ひ出

天香さん
こゝが姨捨です

おゝ、さうですか
長野から來た汽車
師一行を乘せて
今日は松本へ
車上で拜む朝日の前に
驛の昔がかゞやいた

月の名所の姨捨は
六十の年をこえるとさ
姨達も
此のしやばに用がないぞと捨てられた

捨てられる身ならば惜まず
さした枝
悴が歸る道しるべ

山に向ひて
合掌する
おゝ、師の顏よ
霧はれて
夢の河原に
ながれるおひかり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ながし

湯槽から出てながし初めると
「どうぞ私にさせて下さい」
と、同人のNの顔が
背後から笑つた

「どうもすみません」
私は今日の托鉢の疲れを
輕ろくながしていたゞくと
「お禮には及びません」

見るとNは私の背後から
合掌した

ありがたし
それではあまりに
もつたいなし

「どうぞ今度は私にながさせて下さい」
私はNの後ろへまはると
「どうぞ此の儘にして置いて下さい
借貸なしの托鉢です」
と、Nは拜み通した

私はうれしくなつて
直ぐ前に浮び出た顔に
ながしの托鉢をさせていたゞいた

我は働く

我は働く

小さけれど
我は我れながらに救はる

○光の友の書架　三石さんの詩集が『稱佛』と題して新潮社から出る筈になつてゐます。内容は本誌にお寄せなさつたやうな托鉢の境涯を歌はれたものです。天香さんの序文が卷頭をかざつてゐます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

訴訟事件についてお尋ね下された方々へ

住田蓮車

昨年十月、宣光社が預つて居ります秋田縣田ノ澤鑛山の訴訟事件が、一度新聞紙上に傳へられましてからは、諸地方のいろ〳〵の方から、いろ〳〵の意味のお手紙やらおハガキやらが、宣光社或は天香さん宛に參りました。同情して下さる方、叱つて下さる方、また共に悲しんで下さらうといふ方、內容はそれぞれ異なるにしても、皆何れも一燈園、宣光社を愛して下さるお心持から迸り出たお言葉と思つて、私達は難有く其の御厚意を感謝して居るのです。

事件の經過中には、いろ〳〵と複雜な迂餘曲折もありましたが、お蔭樣で、大體は、事の初めに天香さん初め私達が願ひ望みましたやうに、對者方の社會的名譽を傷けることなく、裁判も取り下げ、双方打ち解け、昨年十二月廿七日、示談といふことに定つて、此の訴訟事件は結了したのです。

此の事件の起りから經過に就いて書けば、隨分長い複雜なものになりますが、只誤解から誤解と積み重ねられ來つて居る今日としては、反つて辯解がましくもあり、また事實を事實として其のまゝに記せば、其のことが反つて他を傷けるやうな結果ともなりますし、何れにしても私達の快しとせぬ處、殊に天香さんのお心としては、左樣なことは絕對に忌まれますので、今は、それに就而記すことは控へます。

何故天香さんが裁判に關係したかといふことについては一月號の本誌をお讀み下された方は既に御諒解になつたことゝ思ひます『田ノ澤鑛山訴訟事件について』といふ題の下に宣光社といふ立場からしては、今度のやうな訴訟も餘儀ないものであることの理由だけを發表したものであります。之れは其の當時、大阪朝日新聞の記者から問はれましたのに對して、天香さんが答へられた處の言葉を、其の記者の手に由つて、其のまゝ書き止められたものです。十一月十二日の旬刊朝日に一度掲載されたものですが、其後も、猶引續き、本誌の讀者其他の方々から同じやうな質問があ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

り、一々それにお答へしてゐるといふことは、全く容易ではありませんので、其の代りにもと、本誌に再錄したのです。

また最近では、一月十日頃の讀賣新聞、報知新聞其他數種の新聞に、大層センセーショナルな大見出しで、センセーショナルな記事が載りました。天香さんに對しては、『喰はせ者』であるとか、『偽聖者』であるとか、『悪業曝露』とか、また、宣光社が此の鑛山の經營に關して、殆んど凡ゆる道徳的非道不義を敢て爲し居るものゝ如き内容でありま す。此の材料が何處から出たのかは私達は存じませんが、全く事實とは反した甚しい中傷的記事に過ぎません。誰人か、以て爲めにしやうとする者の企みから出た中傷讒誣であらうと思ひます。

すべては、いつかは、解ることです。只、私達は光に歸命し、光に信順して行くのです。

而して、此の記事が新聞に出てからは、また再び、新らしい、いろ〳〵の意味の手紙やハガキが、私達の手元へ澤山寄せられました。中には、眞面目に其の地方々々で一燈園生活を實行して居られるのに對して此のことのため、周圍から攻撃や反對があつて迷惑せられて居る方もありますさういふ方に對しては、一通り簡單にお答へしておきましたが、其處には、猶、多數御返事漏れとなつて居る方もあり、乃至は『歸讀者同志』といふやうな匿名で手紙を下さる方もありますので、夫等の方にお返事するために、此の一文を書かせて頂きました。

いろ〳〵と御心配下された方は、どうぞ、其のやうなことの絶對にないことを信じて御安心なすつて頂きたうございます。身命も、財産も、地位も、名譽も捨離し果てた身に、何で他を害し傷けて、己れを利さうといふやうな卑劣な考へを持ちませう。

而して、また、今度の此の事件に對して、天香さんの取られた態度、お心持に就いては、私達周圍の者は寧ろ驚きと、一層の尊敬とを喚起させられた程であります。本當に師の愛の心は何處まで深いのか、そして、自己の罪を省み己を責むる念は何處まで強く正しいのか。周圍の或る人々は、激怒の餘り、一層對者方を法律上の罪に投げ込めと主

張しました、辯護士も明に刑法上の罪が構出するものだとと言ひました。其の時、天香さんはその己れを傷け害ねやうとする者の罪と苦とをさへ、自我の罪に歸し、彼の心の艱みを思ひ傷まれて、或る時の如きは、さながらに師自身が罪人であるかの如く、或る强硬なる主張者の前に手をつき頭を下げて、訴訟上の敵者をして罪に落さしめぬやう詫び和められたことさへあつたのであります。

兎も角、此の事件は、前に記しだ通り十二月廿七日を以て終了したのであります。そして、天香さんは、斯樣な事件を惹き起し、世間を騷がせた事の元は、一に自分が不德であり、財物の預り甲斐のない自分に基因すること、出資者關係者に對しては勿論、世間一般に對して申譯ないことであること深く慚愧せられて、背任罪として自首しやうと迄覺悟されたことであつたのです。それは、法律上の罪としては成り立たぬと辯護士から言はれてやみましたが、併しそれだけに天香さんの覺悟は一層深刻なものとなつて居られるやうです。

師は常に一切の十字架を背負はれる、己れに刃を向けた者のその罪業をすら、師は師自身の十字架として背負はれて行く。師は、遠からず、或る形で、此の十字架を負ひ、此の懺悔謝罪を實際に現はして行かれることになるでせうそして、早晩、宣光社といふことについては、何等かの文書の形で、その綱領を、師自身が筆を執つて、發表されることになつて居ります。

『あゝ、我は惱める者かな、』とポーロは言ふ、『一切衆生病む、故に我亦病む、』と維摩居士は言ふ。師が負はれ行く十字架、師が涙を流す懺悔の聲は、それは皆、私達すべての惱める者、罪多き者のための十字架であり、懺悔である師に己れの罪をかし、師を傷けんとする者は恐れよ、慴れよ！

毆らむといふに毆れとつめよせし
昔の我のいとほしきかな

あらそひていたく憎みて別れたる
友をなつかしく思ふ日も來ぬ

——啄木——

一燈園日記抄

大正十一年十二月廿一日　晴

神戸では鈴木五郎さんを中心として、同人が皆深い祈りを籠めて居られる。

『托鉢先が益々ふえ、手不足で困つてゐるから、どうか加勢を頼む、當地は目下新規開拓中のこと〻て、御縁の熟したお宅へは出來るだけ寄せていたゞいて因縁を深う結びたいから……』といふお手紙があつた。

十二月廿二日　晴

追々年の瀬の多忙を控へて、諸方より托鉢希望の申込みが續く。とても應じ切れない。夜、珍らしく家政女學校へ托鉢して居られる相さん、木暮さんが見えた。相さんは泊て行かれた。

十二月廿三日　晴

北陸地方のある住職さんとして、不日その式を擧ぐべき段取となつてゐた間際、しかも病人と妊娠中の奥さんとを殘して、突如一燈園へ來て、日々眞劍な托鉢を行じて居られた大中臣信英さんは、其の後托鉢の傍ら、一生懸命、問題を考究せられた結果、ほゞその解決の曙光を認められたのと、檀家其他から、手を換へ品を替へ、情理を盡した勸告によつて、一先づ歸國せらる〻ことに成つた。昨夜お別れの挨拶に來られたが、今朝杉本さん方で天香師と心ゆくばかり話し合はれ、大層良い御指導を得たのを嬉しく思ふと、滿足と感謝とを殘して出られた。

十二月廿五日　晴

夜、天香さん來園。男女四十人餘りの同人と共にお光の間に坐はられた。來客としては小學校の先生が三人、一燈園生活と教育といふことでいろ〳〵の質問があつた、師は丁寧に答へられた。一わたり其のやうな問答が濟んだ時、天香さんは端然として容を正された、而して、靜に、一同に對つて年末の所感、迎歳の心得、希望を述べられた。

十二月廿六日　晴

鈴木啓文さんが北海道から歸つて來られた。

蘆屋のMさん、南禪寺畔のNさんからお米のお供養あり

十二月廿七日　晴

霜が、まるで雪のやうに濃く深く降りた。

今日は來客五人、其のうち三人まで小學校の先生で、托鉢を數日間實際に味はつて見たいと言はれる。

十二月廿九日　曇

明日の要意に餅米を磨ぐ。一石餘りを三人の婦人方が午前中にすつかりすませて了つた。本當に氣持の好い程元氣に、快活に働らかれる。

藤井さんはシャツ一枚に成つて薪割り、高頭さんは荷車を挽いて、河道屋やNさんからのお供養の米を運ばれる。

お客さんは相變らずお見えになり應接に忙しい。一宿兩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

餐の方や入園希望の人々が今日は十人餘りもお光の間に集まられた。夜具が足りないので、一つの床に二人づゝ寢ていたゞく。

十二月三十日　晴

今日は餅搗き。萬事馴れてゐる最勝さんが總指揮官になつて、森さん、高頭さん、藤井さん、進藤さんなぞが元氣良く搗いたり、かへしたりした。其のうちに天香さんがお見えになり、『どれ、私も一つ搗かせて貰はうか、』と仰有つて、杵を把られた。無理のない落ちついた搗き振り、輕快な手がへし、見てゐても氣持がすが／＼しくなる。

板の間の方では、澁谷さんを中心に、婦人達が小餅を丸めて居られる。

一石餘りの餅が、夕方前に片着いた。

十二月卅一日　晴

此の日は、毎年の例として、在園托鉢者は凡べて十字街頭に立つことになつてゐる。朝出たきり、夜になつても誰一人戻つて來ない。殘つてゐる者は當番初め園の仕事をしてゐる數人だけだ。

大正十二年一月一日　風强し、夜雪

一燈園生活が、天香さんによつて持ち來されてから十九年は過ぎた此の生活の第二十年が今日から始まるのだ。

昨日の一日一夜を十字街頭に立たれた者、泊り掛けの托鉢に出てゐた人々、その他新らしいお客さんなぞがほつ／＼集まつて、午前中に、男五十數人、女三十數人になつた。

天香さんは勝淳さんと御一緒にお見えになつた。

天香さんが導師になつて皆でお勤めをした。其のあとで新らしい年、園生活の第二十年を迎へることの覺悟についてお話しがあつた。

それが濟んで、禪堂をそのまゝ食堂にして、お雜煮を祝ふ。時間は午後三時近くなつてゐた。夜は氣の合ふ者同志幾かたまりにもなつて、それ／＼火鉢を圍んで、快く和樂談笑した。

一月二日　雪

昨夜からの雪が朝は既に三四寸程にも積つてゐた。

夕方天香さん來園、お話しがあつた。

お客さんは六人、安藤洲一さんも見え、陽明學のお話があつた。

一月三日　雪

夕方天香さんお見えになり、お話があつた。今日は五十人程であつた。お客さんも矢張り數人あつた。

一月七日

夕ぐれ頃天香さんお見えになる。

『世間では一燈園の托鉢を許して、女性的だの、奴隷的だのといふけれども、決してそんな弱いものではない、眞劍になつて、一筋に祈りつゝ突き進んで行く時、其處に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

かうだとも、あゝだとも、殆んど考へも及ばぬ、また説明も出來ぬ或る强い力があり、意外の結果が生れてくる。云々』

といふやうな道に對する强い調子のお話があつた。

一月十一日

昨夕岐阜から來られた立山不退さんは、今日また岐阜へ歸られた。九月から小林古陵さんが當番の任に當つて居られたが、既に任期も過ぎたので、次の順番が來てゐる立山さんにお賴みするため、歸つて頂いたのが、海野鏡圓さんをたすけ、岐阜一燈園の創設に努め、多事の折、手を拔くことが出來ぬといふ事情で、立山さんは當番を辭退された

古川實さんがその妹さん御同道で、久し振りに歸園された。數日間在園されるさうだ。

一月十三日

寒餅五斗搗く。

大學病院の事務長西信忠さん御來園、托鉢を大層感謝して歸られた。

夜、天香さん來園、同人に對しお話しがあつた。

（藤田記蓮車抄錄）

附記

昨大正十一年といふ年は、園としても亦天香さんとしても、隨分多事でもあり忙しくもあつた一年である。天香さんは、斷つても、斷つても、斷り切れぬ程に日本全國の各地から招かれ、依賴される講演のため、或は北に、或は南に、旅から旅と續けられて、殆んど京都に居られる暇とてはない程の忙しさであつた。餘りにお忙しい師に對して、私達はその御健康を氣遣はずには居られなかつた。併し、それも、師の深い愛の心、慈悲のお心からしては全く餘儀ないことであつたのであらう。曾て在園、托鉢修業した同人で、それ／＼家なり鄕里なりに歸つて、此の生活をしてゐる者が、各地に可成り大勢ある。さういふ人々の中には此の生活が、その形に於ても亦心持に於ても、餘りに普通世間の人々のそれと違つてゐるために、或は家族から容れられず、或は鄕黨から誤解されて、爲めに道を進める上にいろ／＼と障碍が起つて困る、一度天香さんに來て頂いて講演して頂いたら、夫等の誤解も一掃されるであらうといふ考へから、師に依賴して來るのであつた。眞摯な心を持つて此の道を歩む者に對しては、師は常に良き御同行であり、御同朋である。師が講演に出られるのは、夫等の御同行御同朋の人々を援けるためにであつた。而して、其處へ行つたついでに、其の附近の地からは、若し時間が許せば其の招きに應じられたのであつた。

鹿ケ谷の一燈園の方も、いろ／＼の願や希望をもつて來られる入園希望者でいつも一杯であつた。而して、またその出入りも眩るしい位烈しかつた。二三日から二三ケ月位の在園で次から次へと變つて行くのであつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

其の間には、長く濟世病院に入院して居られた透石さんこ田中太一さんが亡くなられたこいふやうなこともあつた。當番は四月迄は相武次郎さん、五月から六月まで福田喬平さん、九月からは小林古陵さんが其の任に當つて居られた。

一時は、遊び半分のやうな在園者も多少あつて騒しく、靜けさ、落ちつきを尠からず害されたこともあつたが、秋こ共にそれも靜まり、此の頃では皆がそれ〴〵眞劍に動いて居る。

園の内部は當番の古陵さん、副當番の藤田さんが熱心に祈りを籠めてゐる。鈴木啓文さんは奥さんこその二人のお子を伴れて、今度は徹底的に、唯一つのもつれの絲も殘すことなく、世間的羈絆の一切を斷ち切つて、更に强い新らしい歩みをするために、京都へ戻つて來られた。

鈴木五郎さんは、神戸の直木さんの工場を中心に、其の地方の新しい世界の開拓に、立山不退さんは、海野鏡圓さんを援けて濃尾三地方に、何れも熱心に眞劍に托鉢して居られる。

相さんこ木暮侶乘さんは家政女學校に、保光さん、河村さん、住田蓮車の三人は宣光社に、何れも從來通り托鉢。

金川最勝さん御夫婦は花園で、川瀨さんこ御一緒に、數畝の荒蕪地を開拓して、蔬菜の栽培をして居られる。昨年春以來、餘り健康勝れずに居られたお民さんが、病狀一層面白からず、此の頃では、ずうつこ床に就き切りで居られる。本當にお氣の毒だ。早く全快されるやう祈ります。

岩淵金三郎さん御夫婦は御郷里の方へ、十二月七日京都を立つて、托鉢に行かれた。

長く秋田の山に居られた三石勝五郎さんも歳末から園に來て托鉢して居られる。今度、新潮社から、同氏の此の托鉢生活を歌つた『稱佛』こいふ詩集が出ることになつた。多分三四月頃までには市に出ることになるだらう。（蓮車）

◇

不知香積寺。數里入雲峯。古木無人逕。
深山何處鐘。泉聲咽危石。日色冷青松。
薄暮空潭曲。安禪制毒龍。（王　維）

◇

隔水聞鳴磬。迂廻到上方。竹園僧影瘦。
花點佛身香。歩爲尋奇健。歸因覓句忘。
夕陽山更妙。曳杖度西岡。（廣瀨淡窓）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

返照錄

　天にいますまことの父よ。私達を光に結びつけ給うた厚き御惠に對し、深く御禮を申し上げます。私達は墓より引き出されて復活したのだといふことを次第に氣付いて參りまして、嬉し涙に堪えません。私達はそれにも拘らず、餘りに屢々あなたより離れようとし自分で動き自分で求め、何事にかゝわらず自分を振りまはさうといたします。どうぞおゆるし下さいませ。自分といふものゝ絶對に惡であることと、あなたのほかに善美なるものゝなきことを、どうぞ私達の心に燒きつけて下さい。そして、あなたに對し、愛すべき尊むべきあなたの御子達(私達の兄弟姉妹)に常におわびせずに居れぬ素直な心を與へて下さい。新年と共に、與へ給ひし溢るゝ御惠を感謝いたします。

天にいます我らの父よ。願くば御名の崇められんことを。御國の來らんことを。御意の天の如く地にも行はれんことを。我らの日用の糧を今日も與へ給へ。我らの負債ある者を我等の免したる如く我等の負債をも免し給へ。我らを嘗試に遇はせず、惡より救ひ出し給へ。アーメン。

十二月廿三日
朝、運送に間に合せて米を上げる。うどんを六袋つくる。午後疊る。朝入れた米、夜食後上げ、地米をはる。未だ見ざる善美の人を目の前の人に見る。自分はさうありたい。裁く心は地獄を造り出す心である。南無阿彌陀佛。

二十四日
行乞の日。靜座讀經三十分。六時半頃家を出る。澁川の町は明けようとしてゐる。寒い。風が脇の下からはいゐる。明けんとする樺色の赤城麓に烟が上る。左官さんの荒壁塗りの手傳を終日する。いゝ景色だ。晝は親方の辨當をもらひ、夕、八十錢いたゞいて歸る。けむりやのうどんをたべ、五十錢幼稚園へ寄附。

廿五日
クリスマス。

廿六日
餅をつく。日あたゝか。

廿七日
夕方、接骨醫の歸途日誌を買ふ。店頭に關口さんに逢ふ。九時頃米が來る。今年中に八十俵つき上げる豫定。

廿　日
午前、雨がふつたりやんだり。俵を十七俵かつぐ。

廿九日
一時頃起きて幸ちやんと中糠をきる。うどん三袋、そば五貫を作る。そばはさるこまの分量をまちがへて失敗。
今日で醫者行を終りとする。
中の妹に羽仁さんの家計簿を送る。
夜、お年玉の手拭を折る。

三十日
珍らしく昨夜は眠れず、眠れぬまゝにはがきを書く。
うどん三袋。
親が神のものとして、隣人のために盡す目的で積んだ財も、子の私慾のために隣人を害する恐れあり。財産世襲を淨化する方法はないものか。

三十一日
製粉工場を午前大掃除する。
午後、關口接骨醫へ勘定を拂ひにゆく、石山さんの心づくしで一圓五十錢にしていたゞく。十三圓五十錢。
夜、障子の切りばり。
新に栗原さんが建てる教會は三十六坪五千圓の豫定。教會員の各家庭を宣光社とし、教會を其精神的中心又連絡機關とする心組の由。
小糠一俵(五斗)一圓五十錢。麩一袋(八貫)二圓七十錢。

大正十二年一月一日
今年の計劃。
日々の禪座。
日々聖書を讀むこと。(マルコ傳、使徒行傳、マタイ傳、ガラテア書、ルカ傳、ローマ書)
一時半頃から、床の中で昨年中の日誌を讀み、緣ありし人々のために祈つた。米をふみかはり搗く。
とゞまるも行くも主の御意にゆだね奉る。わたしは唯、神の御言葉を、與へられた日と所とに生かし、懺悔、念佛させていたゞく丈である。

二日
托鉢先をあゝかうと選擇したりきめたりする要はない。全體がわが家なのだから、要は日々の念佛の深さと、二心なき托鉢奉仕である。
五日の集りを祝し、みなさまの上に不滅の光を祈る。
近況お知らせのため、この手紙を五日の集りに寄せさしていたゞきます。(一月二日、在群馬縣澁川町、栗原陽太郎樣方古川實兄より東京一燈園兄弟姉妹宛)

大正十二年二月十日印刷納本　代金　廿錢
大正十二年二月十五日發行
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行兼印刷人　中桐確太郎
印刷所　株式會社一匡印刷所
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社

島崎藤村同型著作集五種

千曲川のスケッチ

「もつと自分を新鮮にそして簡素にしなければならない」やがて大藝術を生むに至つたこの尊い自覺から、遙か信州信濃の山奥に逃れた著者の、小諸城趾、淺間の傾斜地、千曲川べり一帶に於ける青年的感激に盈ちた生活の記錄。自然と人生の溫かき抱愛に接せよ。

第二十版
壹圓四拾錢
送料十二錢

藤村詩集

日本の詩壇は前後二期に分たれる。自然と人生を融合するために拂はれた新體詩時代の氏の努力が、いかに自由詩への寶玉となつたか。……(內容)若菜集、夏草、落梅集

壹圓五拾錢
送料十二錢

新片町だより

「千曲川のスケッチ」時代の瞑想期は、愈々人として生き、愛し、死ぬる「生」を、如實に表現すべき道程に至つた。既に榮に、大藝術家の面目を贏ち得たる著者がこの「新片町」時代は實に、街頭に立つて、人及び藝術家としての使命を果す鬪ひのときである。

第十五版
壹圓四拾錢
送料十二錢

藤村文集

小諸時代前後になれる散文のみを蒐集したもの、詩の形式にて表現し難き複雜な思想と美妙なる感情の流露として「藤村詩集」と共に、若き日の面影が躍如してゐる。

金九拾五錢
送料金八錢

巴里だより

鬪ひに疲れたのではない、敗れたのでは勿論ない。然し何の爲に慈母亡き幼兒數人を殘して遙か異極へ旅立たなければならなかつたか、それはこの「巴里だより」及「新生」に盡されてゐる。實に氏は現實を總括して自分及それを育む周圍の凝視を續けてゐたのだ。

第十二版
壹圓貳拾錢
送料十二錢

東京日本橋通
振替一六一七
春陽堂
電話本局五壹
全國書店販賣

悟道に落第し、凡夫と握手した親鸞

長篇小説

人間苦の親鸞

松田青針著

◆定價金貳圓

◆四六判木版布表紙

◆書留送料十八錢

口稱の誓約に隨順するの實驗なくして單なる考察によつて親鸞の信仰と人格を描くならばそれは畢竟美しい畫餅に過ぎない。

佛にならんとして人間に還つた人、悟道に落第して迷倒に生きた人、聖道の會座を退いて凡夫の我等と握手した人、それは愚禿の親鸞であつた。口稱の體驗によつて直に如來の本誓に詣で、念佛の眞門に參じて如來弘願の肝に深く喰ひ込んだ親鸞は、實際口稱の誓約に隨順したものでなければ窺ひ知り得べきところではない、この實驗なくして單なる考察によつて親鸞の信仰と人格とを描くならば、それは畢竟美しい畫餅に過ぎないのだ。よく出來た畫は實物より美しく甘さうに見えるけれどもいくら甘さうに見えても決して腹はふくれない。本書の出現は世の幾多の人によつて描寫されたる畫餅を引き裂いて、實物の餅を抛り出すものである。

相馬御風著 大愚良寛 二圓七十錢 送料十八錢

尾山篤二郎著 西行法師全集 三圓五十錢 送料廿七錢

○生きるためには死なねばならぬ…… 西田天香

東京日本橋通一 振替一六一七 春陽堂 電話本局五壹 全國書店販賣